

令和 8 年 1 月 28 日
総合教育センター大研修室
午前 10 時 ～ 正午

令和 7 年度 第 2 回葛飾区特別支援教育推進委員会 次第

1 開会

2 議題

（１）葛飾区特別支援教育事業の取組状況について 資料 2

（２）葛飾区特別支援教育に関する研修について 資料 3

（３）各検討部会における課題と方向性について 資料 4

（４）令和 8 年度 葛飾区特別支援教育推進委員会について 資料 5

3 その他

4 閉会

【資料】

- 資料 1 令和 7 年度 葛飾区特別支援教育推進委員会名簿
- 資料 2 令和 7 年度 葛飾区特別支援教育事業の取組状況
- 資料 3 令和 7 年度 葛飾区特別支援教育に関する研修
- 資料 4 令和 7 年度 各検討部会における課題と方向性
- 資料 5 令和 8 年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定

令和 7 年度 葛飾区特別支援教育推進委員会名簿

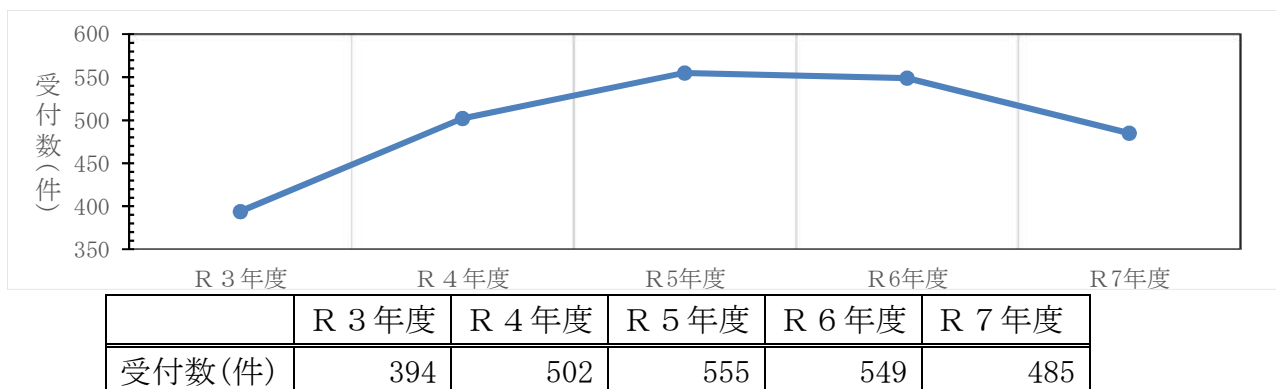
	所属	職位	氏名
委員長	葛飾区教育委員会事務局	学校教育担当部長	山梨 智弘
副委員長	聖徳大学	教授	河村 久
委員	都立よつぎ療育園	園長	玉木 久光
委員	のぞみ学園かめあり	園長	早川 薫
委員	葛飾区私立幼稚園連合会	葛飾こどもの園幼稚園長	加藤 和成
委員	葛飾区私立保育園連盟	認定こども園すなはら園長	高橋 広美
委員	葛飾区私立保育園経営者協議会	奥戸保育園長	高橋 龍晟
委員	葛飾区私立学童保育クラブ連盟	葛飾区私立学童保育クラブ連盟会長	塚田 剛士
委員	葛飾区立小学校長会	亀青小学校長	渡邊 浩
委員	葛飾区立中学校長会	四ツ木中学校長	兼子 容子
委員	都立葛飾ろう学校	校長	姫野 滋子
委員	都立葛飾盲学校	校長	竹内 大吾
委員	都立水元小小学園	統括校長	小池 巳世
委員	都立水元特別支援学校	校長	野口 幹人
委員	都立葛飾特別支援学校	校長	村山 大介
委員	葛飾区福祉部障害者施設課	課長	林 大祐
委員	葛飾区子育て支援部子育て施設支援課	課長	中安 祥之
委員	葛飾区子育て支援部保育課	課長	大石 睦貴
委員	葛飾区子育て支援部子ども・若者担当課	課長	尾崎 隆夫
委員	葛飾区児童相談部子ども家庭支援課	課長	富里 友季子
委員	葛飾区教育委員会事務局学務課	課長	大倉 義雄
委員	葛飾区教育委員会事務局教育指導課	課長	杉山 茂

事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	課長	二ノ宮 正信
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター管理担当課	課長	松井 美貴子
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	統括指導主事	田辺 留美子
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	指導主事	納 太郎
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	指導主事	田場 正幸
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	特別支援教育係長	後藤 雪絵
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	就学相談係長	村上 貴寛
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	特別支援教育係員	浅井 雄太
事務局	葛飾区教育委員会事務局総合教育センター教育支援課	特別支援教育係員	堤 麗夏

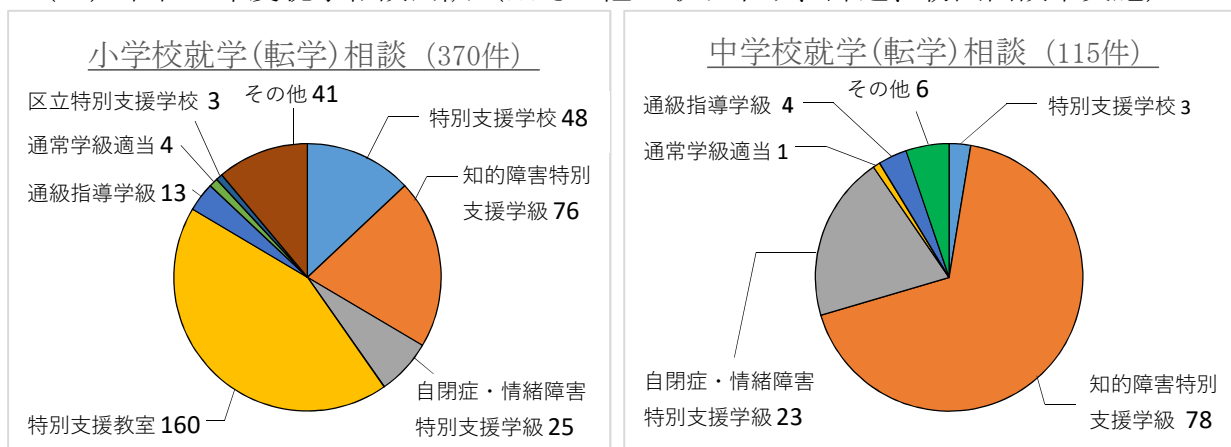
令和 7 年度 葛飾区特別支援教育事業の取組状況

1 就学相談について

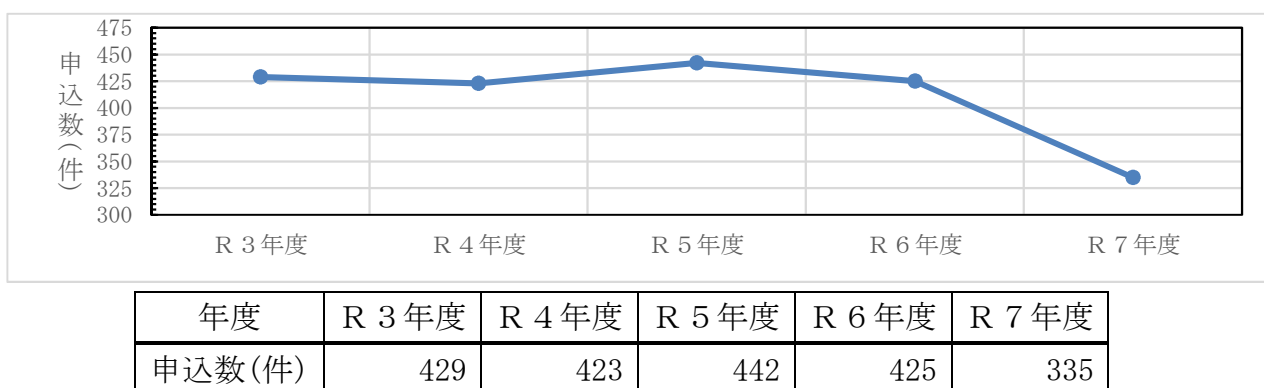
(1) 就学相談受付数（令和 7 年度は令和 8 年 1 月 1 日時点）



(2) 令和 7 年度就学相談内訳（※その他：取り下げ、辞退、初回面談未実施）



(3) 引継ぎ会申込数（令和 7 年度は令和 8 年 1 月 1 日時点）

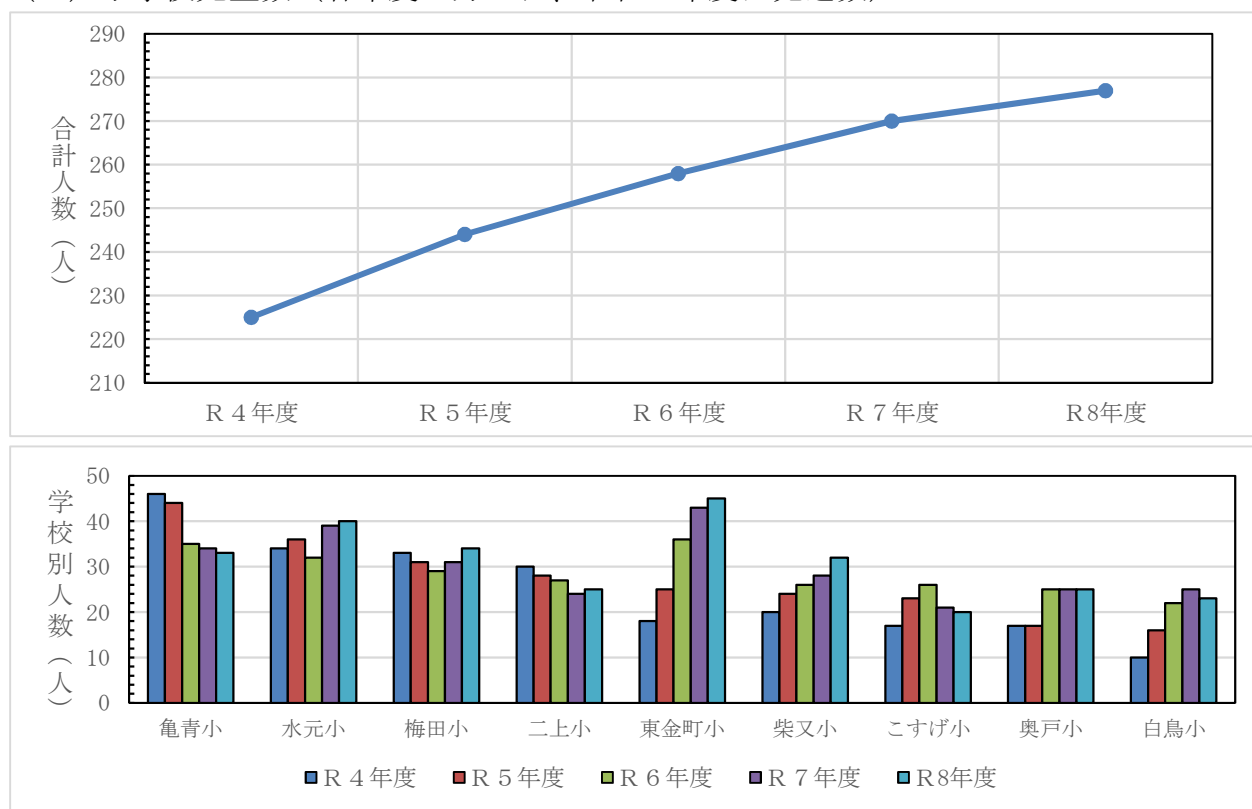


(4) 現状と課題・今後の方向性

- ① 令和 6 年度から、特別支援教室相談会の総括を拠点校等の校長が担うことで、学校管理職の立場からの所見が得られ、就学相談会の充実に繋がっている。この取組みを踏まえ、令和 8 年度からは、小・中学校の就学相談会及び自閉症・情緒障害特別支援学級相談会についても、設置校の校長が総括を行う方向で検討している。
- ② 就学相談専門員（総合教育センターの会計年度職員）の欠員は令和 7 年 10 月に解消した。しかし、就学相談件数は今後も同程度で推移すると見込まれるため、他区の事例も参考にしながら、就学相談の運営方法を検討していく。

2 知的障害特別支援学級について

(1) 小学校児童数（各年度4月7日、令和8年度は見込数）

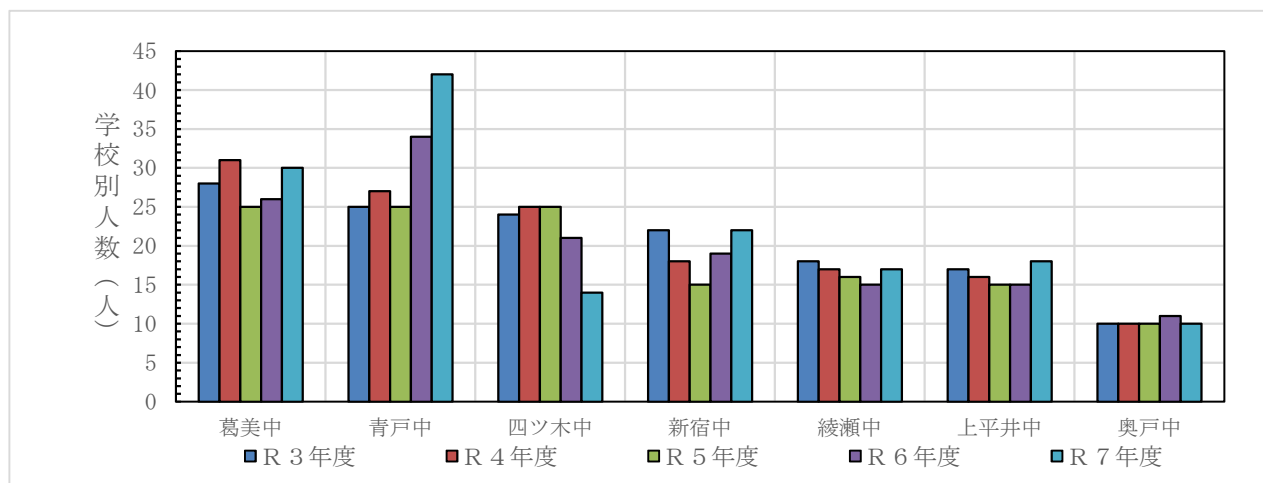
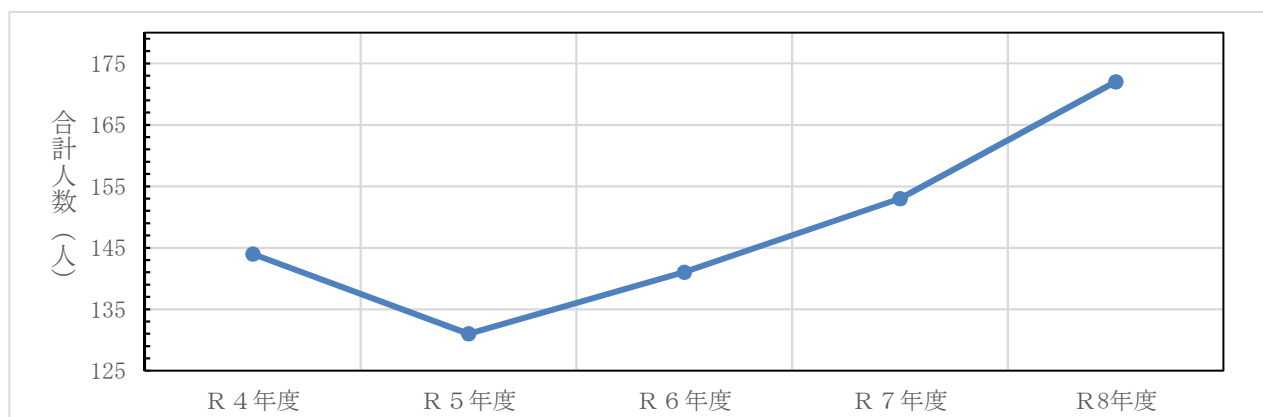


年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
亀青小	46	44	35	34	33
水元小	34	36	32	39	40
梅田小	33	31	29	31	34
二上小	30	28	27	24	25
東金町小	18	25	36	43	45
柴又小	20	24	26	28	32
こすげ小	17	24	26	21	20
奥戸小	17	17	25	25	25
白鳥小	10	16	22	25	23
合計(人)	225	244	258	270	277

参考：R 8年度 小学校学年別児童数内訳

学校名	亀青小	水元小	梅田小	二上小	東金町小	柴又小	こすげ小	奥戸小	白鳥小	合計
1年生	4	2	5	6	8	7	3	2	3	40
2年生	7	7	5	2	6	1	1	2	3	34
3年生	3	11	5	6	7	7	7	5	5	56
4年生	5	3	5	4	13	5	4	3	7	49
5年生	3	10	4	4	4	5	2	7	3	42
6年生	11	7	10	3	7	7	3	6	2	56
合計(人)	33	40	34	25	45	32	20	25	23	277
学級数	5	5	5	4	6	4	3	4	3	39

(2) 中学校生徒数（各年度4月7日時点、令和8年度は見込数）



年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
葛美中	31	25	26	30	25
青戸中	27	25	34	42	47
四ツ木中	25	25	21	14	16
新宿中	18	15	19	22	29
綾瀬中	17	16	15	17	21
上平井中	16	15	15	18	25
奥戸中	10	10	11	10	9
合計(人)	144	131	141	153	172

参考：令和8年度 中学校学年別生徒数内訳

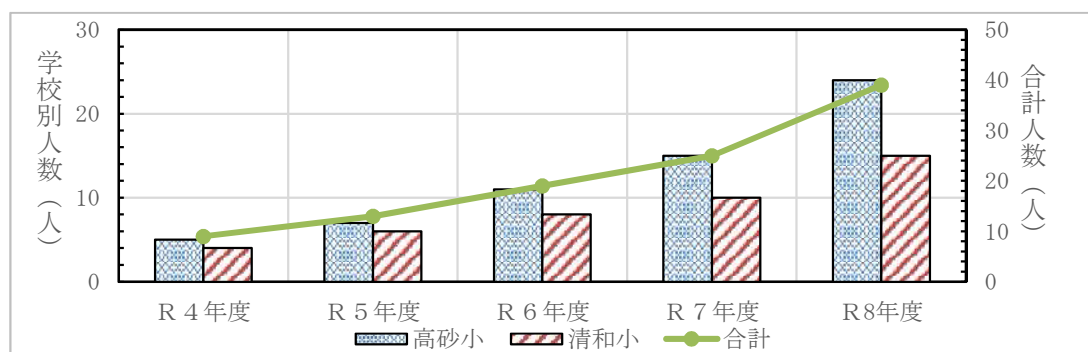
学校名	葛美中	青戸中	四ツ木中	新宿中	綾瀬中	上平井中	奥戸中	合計
1年生	8	13	6	10	4	11	4	56
2年生	9	17	8	8	10	8	3	63
3年生	8	17	2	11	7	6	2	53
合計(人)	25	47	16	29	21	25	9	172
学級数	4	6	2	4	3	4	2	25

(4) 現状と課題・今後の方向性

- ① 令和7年度から、小学校の宿泊学習については保護者・児童の希望があれば、通常学級の宿泊学習に参加できるようにした。また、中学校については、各校の通常学級の宿泊学習に参加することとした。
- ② 水元小、東金町小、青戸中の在籍児童・生徒数が増えており、今後、使用する教室の増設について検討が必要である。
- ③ 令和7年度から、亀青小、白鳥小、東金町小の3校の特別支援学級に在籍している児童の1人1台端末に、動画やドリルで学ぶことができる学習アプリを導入した。学校からは、児童一人一人の実態に応じて、自分に合った教材を選択しながら学習できるようになったとの報告を受けている。このことを踏まえ、令和8年度は、特別支援学級に在籍するすべての児童・生徒の1人1台端末への導入を検討中である。

3 自閉症・情緒障害特別支援学級について

(1) 小学校児童数（各年度4月7日時点、令和8年度は見込数）



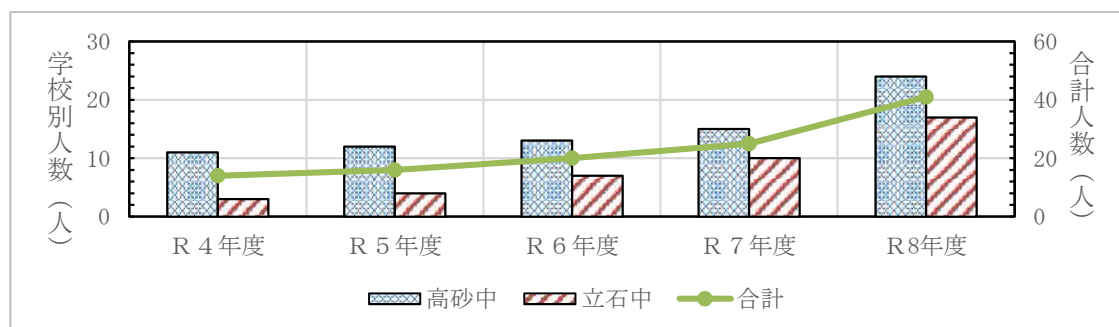
【高砂小学校】 学年別児童数

年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
2年生	0	0	0	1	1
3年生	1	0	1	1	6
4年生	1	3	3	2	4
5年生	2	0	5	5	5
6年生	1	4	2	6	8
合計(人)	5	7	11	15	24
学級数	1	1	2	2	3

【清和小学校】 学年別児童数（R4年度設置）

年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
2年生	0	0	0	0	0
3年生	2	1	0	1	1
4年生	1	3	3	2	6
5年生	0	1	3	4	4
6年生	1	1	2	3	4
合計(人)	4	6	8	10	15
学級数	1	1	1	2	2

(2) 中学校生徒数（各年度4月7日時点、令和8年度は見込数）



【高砂中学校】 学年別生徒数

年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
1年生	4	3	5	6	13
2年生	5	4	4	5	6
3年生	2	5	4	4	5
合計(人)	11	12	13	15	24
学級数	2	2	2	2	3

【立石中学校】 学年別生徒数（R4年度設置）

年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
1年生	3	1	3	5	8
2年生	0	3	1	4	5
3年生	0	0	3	1	4
合計(人)	3	4	7	10	17
学級数	1	1	1	2	3

参考：自閉症・情緒障害特別支援学級 児童及び生徒数

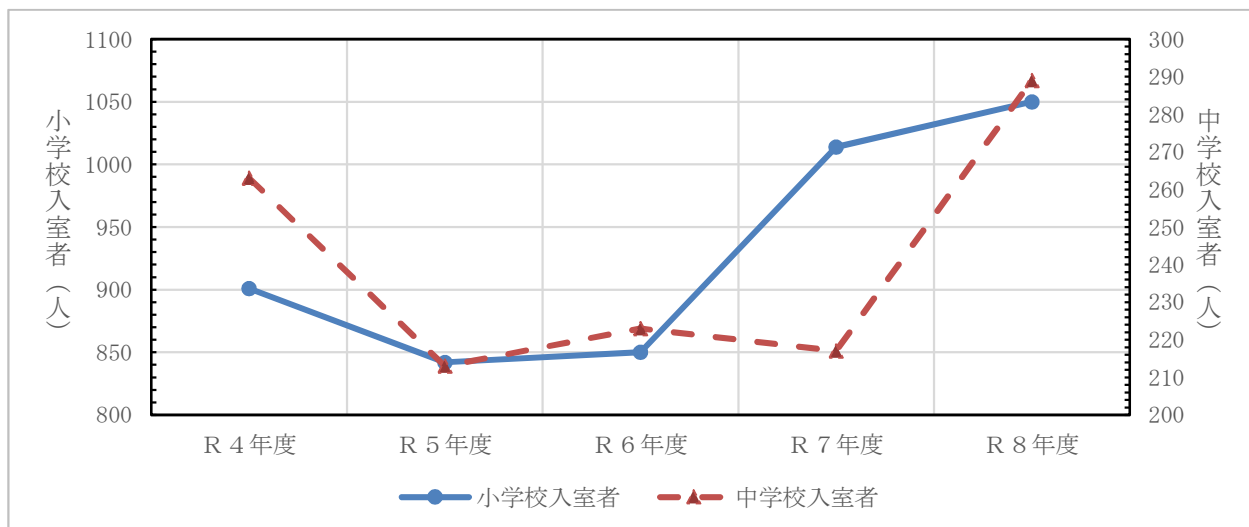
年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度
小学校児童数(人)	9	13	19	25	39
中学校生徒数(人)	14	16	20	25	41

(3) 現状と課題・今後の方向性

- ① 各校とも在籍児童・生徒数は逡増している。高砂小・中学校では、児童・生徒数の増加により教室が不足したため、特別支援教室として使用していた教室を高砂小の特別支援学級の教室として活用することとした。
- ② 令和7年度から、特別支援学級に在籍する児童・生徒の1人1台端末に学習者用デジタル教科書を導入した。学校からは読み上げ機能の活用や補助資料の視聴などにより、児童・生徒の学習に有効であるとの報告を受けている。このため、令和8年度も引き続き導入を予定している。
- ③ 令和7年度の就学相談会から、心理士で大学講師の専門家をコーディネーターとして検討会に招いた。専門的な観点からの助言を受け、検討内容の充実につながった。このため、令和8年度も外部の専門家をコーディネーターとして招くことを検討している。
- ④ 小学校、中学校ともに教員の専門性向上が課題となっている。また、かん黙の児童・生徒や衝動性・多動性の高い児童・生徒など、多様な特性をもつ児童・生徒が同一学級に在籍していることから、教員の負担が大きくなり、学級運営にも困難が生じている。これまでも発達障害についての理解や教科指導に関する研修を実施してきたが、引き続き、研修の充実を図り、教員の専門性向上と負担軽減に繋げていく。
- ⑤ 自閉症・情緒障害特別支援学級の講師等の人的配置については、学校と連携し引き続き必要な人員の確保を図る。
- ⑥ 自閉症・情緒障害特別支援学級への入級を希望する児童・生徒数の増加に伴い、既存の4校の教室数に不足が生じ、これ以上の受け入れが今後困難となる可能性がある。児童・生徒数の推移や需要の見込み、立地や施設の整備も考慮しながら、自閉症・情緒障害特別支援学級の増設について検討する必要がある。

4 特別支援教室について

(1) 小学校、中学校入室者数（各年度4月7日時点、令和8年度は見込数）

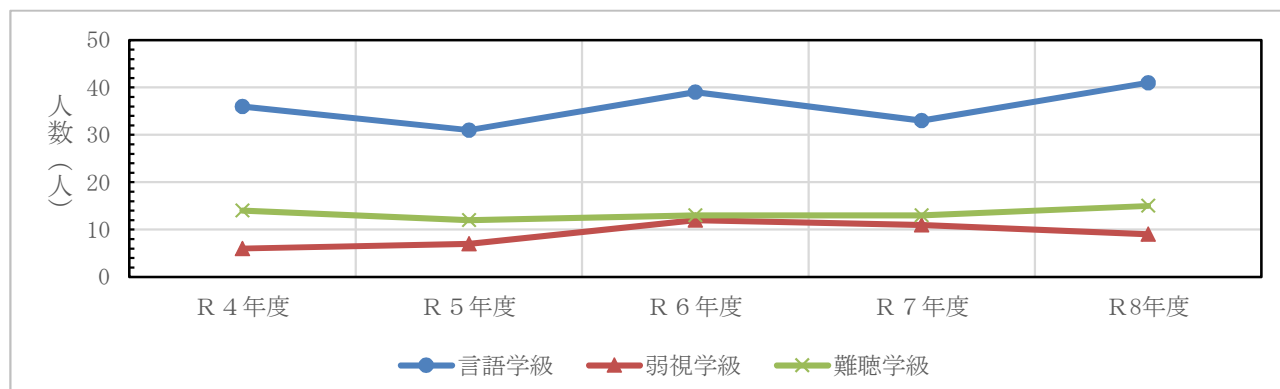


年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度
小学校入室者数(人)	901	842	850	1014	1050
中学校入室者数(人)	263	213	223	217	289

(2) 現状と課題・今後の方向性

- ① 巡回指導教員の負担軽減を図るため、令和7年度より、巡回指導も可能となる「特別支援教室指導講師」の職を新設した。
- ② 令和7年度から、川端小、本田小、東四つ木小、中青戸小の特別支援教室に通室する児童の1人1台端末に、認知機能強化トレーニングアプリを試験導入した。学校からは、学習の習慣化、集中力の持続、前向きに挑戦する姿が見受けられるようになったとの報告を受けている。このことを踏まえ、令和8年度は、小学校全校の特別支援教室に通室する児童の1人1台端末への導入を検討中である。
- ③ 例年、新規入室者数が退室者数を上回る状況が続いているため、特別支援教室の目的や、原則の指導期間の考え方について改めて全校に周知する。

5 通級指導学級について



（各年度4月7日時点、令和8年度は見込数）

（1）言語学級（ことばの教室）児童数

【本田小学校】 学年別児童数

年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
1年生	3	2	6	3	3
2年生	7	12	13	10	5
3年生	11	4	11	13	7
4年生	7	5	3	4	1
5年生	4	6	4	2	1
6年生	4	2	2	1	0
合計(人)	36	31	39	33	17

【末広小学校】 学年別児童数（R8年度設置）

年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
1年生	0	0	0	0	0
2年生	0	0	0	0	6
3年生	0	0	0	0	7
4年生	0	0	0	0	4
5年生	0	0	0	0	1
6年生	0	0	0	0	1
合計(人)	0	0	0	0	19

（2）弱視学級児童・生徒数 設置校：住吉小学校、立石中学校

年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
住吉小学校	4	6	10	9	9
立石中学校	2	1	2	2	0
合計(人)	6	7	12	11	9

（3）難聴学級児童・生徒数 設置校：青戸小学校、青戸中学校

年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
青戸小学校	9	9	9	11	10
青戸中学校	5	3	4	2	5
合計(人)	14	12	13	13	15

（4）現状と課題・今後の方向性

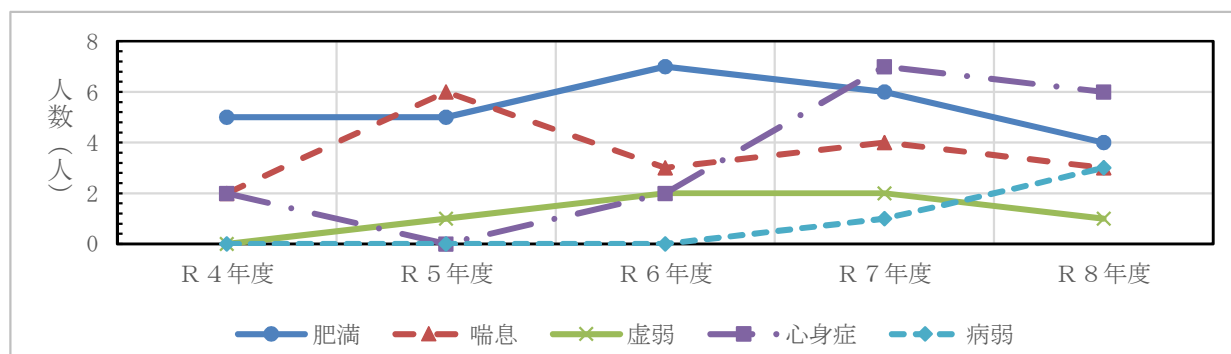
- ① 言語学級への入室希望児童が増加しており、また、区内全域から通学してくることを配慮し、令和8年4月に区内2か所目となる「ことばの教室」を末広小に開設する。そのため、現在通級している児童の保護者に対しては、今後の通級先となる学校について個別に通知を行った。また、「ことばの教室のご案内」リーフレットを作成し、通室対象校や通室手続きの流れ等について各学校へ周知した。現在、末

広小の教室環境の整備を2月末まで、必要物品の購入を3月末までを目途に準備を進めている。

- ② 立石中の弱視学級の移設については、調整に時間を要していたため実施が遅れていたが、移設に向けた環境が整いつつあることから、令和9年度に新たな学校で弱視学級を設置できるよう検討を進めていく。

6 区立病弱特別支援学校 保田しおさい学校について

(1) 児童・生徒数（各年度4月1日時点、令和8年度は見込数）



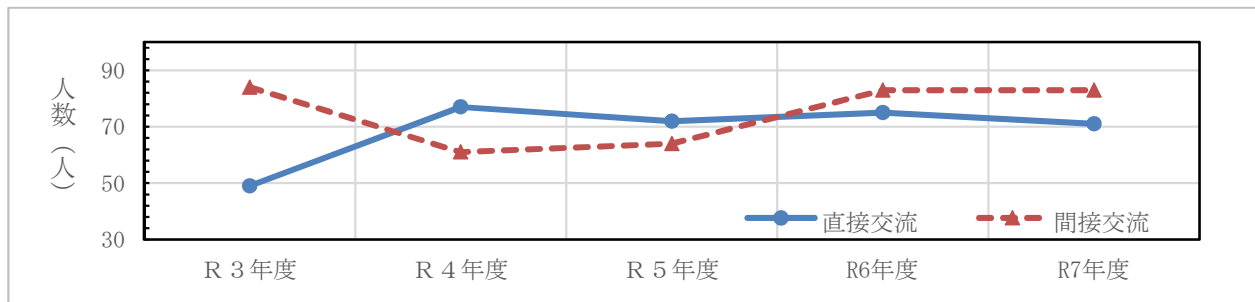
年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
肥満	5	5	7	6	4
喘息	2	6	3	4	3
虚弱	0	1	2	2	1
心身症	2	0	2	7	6
病弱	0	0	0	1	3
合計(人)	9	12	14	20	17

(2) 現状と課題・今後の方向性

- ① 保田しおさい学校の入校者数は、一時期大きく減少したものの、近年は逡増している。
- ② 保田しおさい学校での学校見学会を、年3回実施している。学校見学会では、実際の校舎や寄宿舍の様子を直接見ることができることから、見学会への参加が入校につながっている。また、見学会の実施時期を、新学期からの入校が円滑に進む時期に設定していることも、入校者数の逡増に寄与していると考えられる。このため、今後も年3回の学校見学会の実施を継続していく。

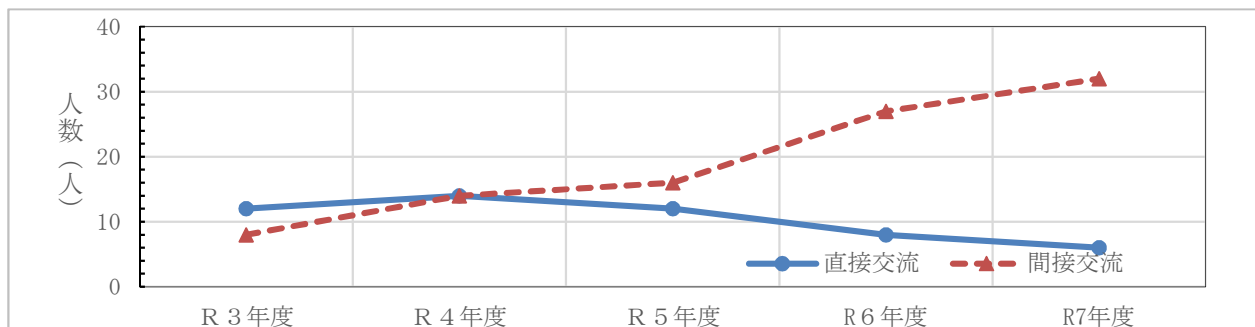
7 副籍交流について

(1) 小学校児童数（各年度末時点、令和7年度は令和7年12月1日時点）



年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
直接交流	49	77	72	75	71
間接交流	84	61	64	83	83
合計(人)	133	138	136	158	154

(2) 中学校生徒数（各年度末時点、令和7年度は令和7年12月1日時点）



年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
直接交流	12	14	12	8	6
間接交流	8	14	16	27	32
合計(人)	20	28	28	35	38

(3) 現状と課題・今後の方向性

- ① 令和7年度は、前年度より小学校、中学校ともに間接交流数が増加している。
- ② 近隣の特別支援学校教諭等による副籍実務者連絡会を実施し、各校での副籍実施状況や課題について情報交換を行った。
- ③ 副籍交流の充実を図るため、校園長会で副籍交流の実施について周知している。
また、電子メールで情報交換ができる体制を整え、副籍交流の円滑化を図った。
- ④ 副籍交流の内容については、学校間で取組状況にばらつきがあり、実施内容に差がみられる。このため、特別支援教育コーディネーター研修等を通じて、交流内容の質の向上を図っていく。

8 医療的ケアについて

(1) 葛飾区立学校での在籍数（各年度4月1日時点、令和8年度は見込数）

年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度
幼稚園	1	1	0	0	0
小学校	3	2	3	4	4
中学校	0	0	0	0	0
合計（人）	4	3	3	4	4

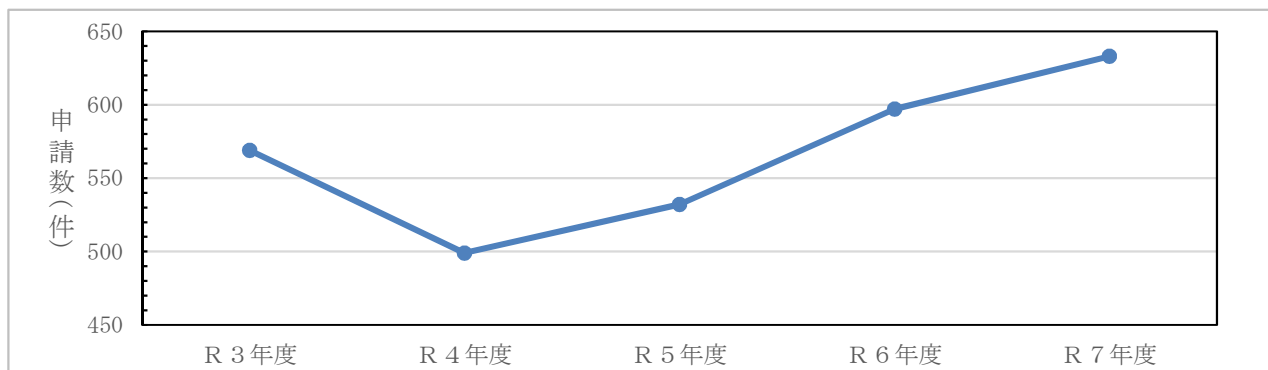
(※令和8年度の医療的ケアの内訳：日常的酸素管理1人、導尿1人、気管切開によるたんの吸引2人)

(2) 現状と課題・今後の方向性

- ① 派遣看護師の学校看護師連絡会への参加を要請したことにより、派遣看護師のみが勤務する学校の医ケア児の状況や、医療的ケアの実施状況を把握している。
- ② 今後も派遣看護師の活用等により看護師を安定的に確保し、医療的ケアの実施体制の充実を図る。
- ③ 医療的ケア児が今年度、水泳学習への参加を希望したが、介助員の確保が課題となった。今後は、希望があった際に介助員を配置できるよう、体制整備に向けた検討を進めていく必要がある。

9 知能検査、アイリスシート（学齢期版支援シート）について

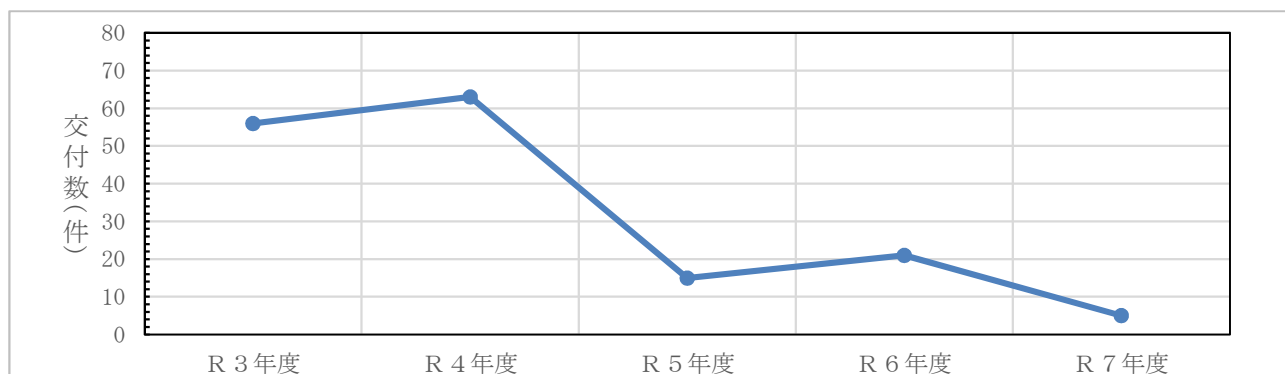
（１）知能検査申請数（各年度末時点、令和７年度は令和７年１２月１２日時点）



年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度
申請数(件)	569	499	532	597	633

（２）アイリスシート学齢期版支援シート交付数

（各年度末時点、令和７年度は令和８年１月１日時点）



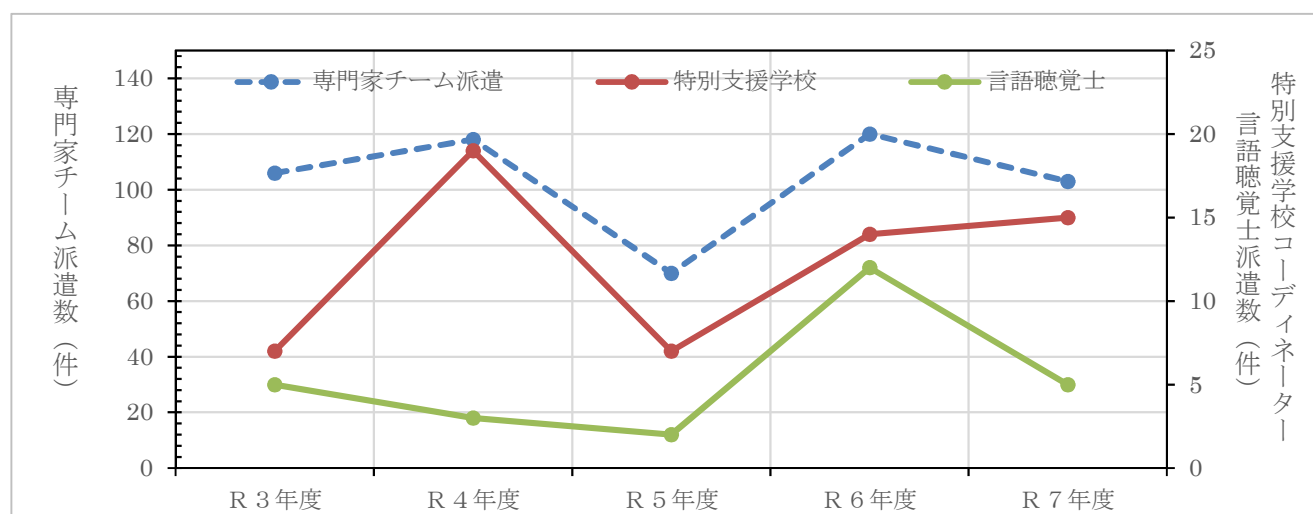
年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度
交付数(件)	56	63	15	21	5

（３）現状と課題・今後の方向性

- ① 令和６年度に心理検査申請数が大幅に増加したことから、令和７年度から心理専門員を増員するとともに、申請スケジュールの見直しを図った。しかし、申請数は前年度より増加していることから、繁忙期の緩和に向けた検討を引き続き行っていく。
- ② 知能検査の精度向上のため、令和７年度から、WISC-V及び田中ビネーVIを新たに導入し、よりきめ細やかな支援に繋げている。
- ③ アイリスシートの交付数が大幅に減少している。今後、学校や保護者の活用状況を把握し、アイリスシートの今後のあり方について検討する。

10 専門家チーム派遣、支援会議実績について

(1) 専門家チーム派遣事業件数（各年度末時点、令和7年度は令和8年1月1日時点）

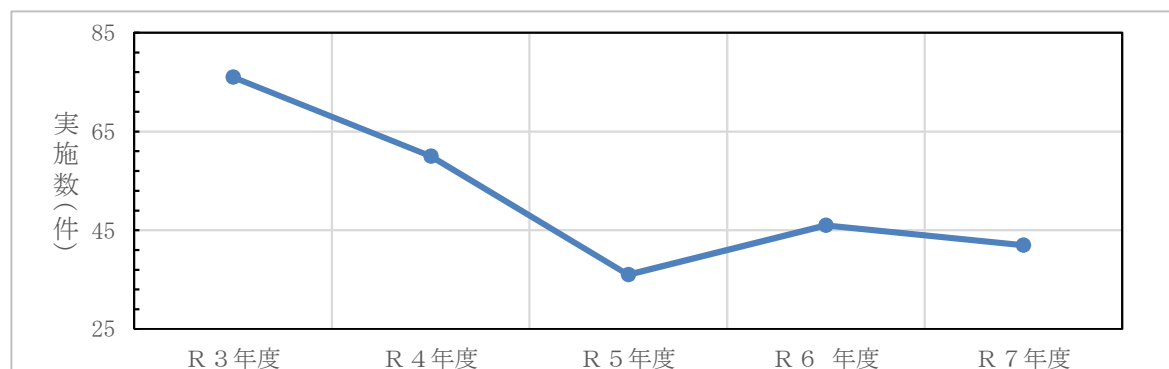


年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
専門家チーム派遣数 (件)	106	118	70	120	103
特別支援学校コーディネーター派遣数 (件)	7	19	7	14	15
言語聴覚士派遣数 (件)	5	3	2	12	5

※専門家チーム派遣数には、特別支援学校コーディネーター派遣数と言語聴覚士派遣数を含む。

(2) 支援会議参加件数（ケース会議含む）

（各年度末時点令和7年度は令和8年1月1日時点）



年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
実施数 (件)	76	60	36	46	42

※上記（1）専門家チーム派遣数には支援会議実施数を含む。

(3) 現状と課題・今後の方向性

- ① 学校が抱える課題が多様化していることから、これまでとは違った専門的視点からの支援に繋げるため、専門家チームに作業療法士を新たに加えることを検討中である。
- ② 支援会議参加件数は前年度と比較し増加傾向である。引き続き、学校、保護者に対し適切な助言を行っていく。
- ③ 専門家チーム派遣事業の活用手順や活用事例を周知するため、事業リーフレットを作成し、更なる活用の促進を図る。

11 多層指導モデル（デジタル版 MIM）について

（１）実施内容

令和４年度から、すべての区立小学校の１年生及び特別支援教室に導入。令和５年度からは小学校全校に導入し、タブレット端末を活用して実施している。

（２）現状と課題・今後の方向性

- ① 学校によって、デジタル MIM の活用状況にバラつきがあるため、利用実績が少ない学校へ、引き続き活用を促していく。
- ② 新たに導入したデジタル教材と両立させながら活用するよう促していく。

12 デジタル教材について

（１）令和７年度試行導入実績

	① 認知機能強化 トレーニングアプリ	② デジタル教科書	③ 学習補助アプリ
対象	特別支援教室 (小学校のみ)	自閉症・情緒障害 特別支援学級	知的障害 特別支援学級
導入学校数	小学校：４校 ※対象校の一部に導入	小学校：２校 中学校：２校 ※対象校全校に導入	小学校：３校 ※対象校の一部に導入
教材内容	記憶・言語理解・知覚等の土台となる認知機能を高めるためのトレーニングを提供する。	紙の教科書の内容に加えて、音声読上げ機能や動画教材等が付与されている。	アニメーションや音声を活用した教材により、反復学習を含めた効果的な学びをサポートする。
目的	学習の質や自己効力感の向上を目指す。	児童・生徒の抱える学習上の困難さを軽減する。	一人一人の理解度に合わせた学習の場を提供する。

（２）現状と課題・今後の方向性

- ① 令和７年度はデジタル教材の試行導入を行い、各導入校の試行導入における効果検証を行った。対象校の一部に導入した教材については、効果検証の結果を踏まえ、令和８年度に対象校全校の導入を検討中である。
- ② 学校や担任の間で利用実績に差異があることから、導入時のフォローアップを含めた教材の使用方法、活用方法、活用によるメリット等を引き続き周知していく。

13 ペアレントトレーニングについて

(1) 応募状況

年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
定員(人)	6	6	10	25
回数(回)	1	2	2	2
応募者数(人)	30	28	39	36
倍率	5.0	2.3	1.9	0.7

(2) 現状と課題・今後の方向性

- ① 令和4年度の事業実施当初から定員を上回る応募があったことから、令和6年度から業務を外部事業者へ委託し、定員を増やして実施した。しかし、令和6年度も定員を上回る応募状況が続いたため、令和7年度はさらに定員を増やしたが、応募者数が定員を下回った。今後、より多くの保護者が参加できるよう、周知方法や実施方法等の見直しを検討していく。
- ② 令和7年度までは区立小学校の特別支援教室を利用している1年生から3年生までの保護者を対象としていたが、令和7年度に実施した保護者向けニーズ調査の結果から、4年生から6年生までの保護者にも高いニーズがあることが明らかになった。令和8年度は、保護者の満足度向上を目指し、対象学年の拡大を検討中である。

令和 7 年度 葛飾区特別支援教育に関する研修

目的

特別支援教育の充実のため、研修内容の見直しを図ることで、教職員が研修を通じて、特別支援教育の基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、専門性を向上させるようにする。

令和 6 年度課題

- 特別支援学級や巡回指導教員、特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育の重要な担い手であり、その専門性が校内の他の教員に与える影響も極めて大きい。このため、専門的な研修の受講等により、研修を通し、専門性の向上を図ることが必要である。
- 東京都立特別支援学校と連携し、特別支援学校のセンター的機能を生かし、研修内容を充実する必要がある。
- 研修の実施方法を見直し、集合研修だけでなく、オンラインやオンデマンド研修の活用を検討する必要がある。

1 特別支援教室巡回指導教員研修（対象：拠点校巡回指導教員）

実施月日	内容	対象者数	受講実績
7月15日(火)	・特別支援教室巡回指導教員に求められる専門性 【講師】町田市教育センター特別支援教育・人材育成アドバイザー ビジョンアセスメントトレーナー 丸 節子 氏	96 人	65 人
12月19日(金)	・発達が気になる子どもの運動・感覚特性と支援 発達性協調運動症 (DCD) 【講師】東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 作業療法士 東恩納 拓也 氏		48 名

2 特別支援教育コーディネーター研修（対象：特別支援教育コーディネーター）

実施月日	研修内容・講師等	対象者数	受講実績
4月18日(金)	・特別支援教育コーディネーターに期待される役割について ・特別支援教室訪問の実施について ・就学相談について ・発達検査について ・副籍について ・「見え方」相談会について 【講師】担当指導主事、専門家チーム、特別支援教育係 都立特別支援学校特別支援教育コーディネーター	73人	73人
9月16日(火)	・特別支援教育コーディネーターによる校内支援体制の充実について 【講師】東京都立水元特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 佐藤 美紀 氏	73人	72人

3 特別支援教育基礎研修会（対象：教員経験年数 6 年以内の教員）

実施月日	内容	対象者数	受講実績
7月7日(月)	・児童・生徒の特性に応じた指導・支援の工夫 ～インクルーシブ教育の推進に向けて～ 【講師】東京都教職員研修センター 篠崎 友誉 氏	73 人	61 人
10月17日(金)	・児童・生徒の特性に応じた指導・支援の工夫 ～児童・生徒のアセスメントと指導～ 【講師】東京都教職員研修センター 篠崎 友誉 氏	73 人	79人

4 知的障害特別支援学級教員研修

(対象：知的障害特別支援学級 教諭・主任教諭・主幹教諭
特別支援学級担当の教員ではない教員の方の参加も可能とする)

実施月日	内容	対象校数	受講実績
7月24日(木)	・学校見学(水元特別支援学校) 【講師】水元特別支援学校コーディネーター佐藤 美紀 氏	77人	51人
11月18日(火)	・特別支援学級の授業におけるタブレット端末の活用について 【講師】総合教育センター教育支援課 担当指導主事		12人

5 自閉症・情緒障害特別支援学級教員研修

(対象：自閉症・情緒障害特別支援学級 教諭・主任教諭・主幹教諭)

実施月日	内容	対象校数	受講実績
7月22日(火)	・自立活動の指導の観点を生かした教科指導について 【講師】中野特別支援学校 主幹教諭 日高 浩一 氏	4校	3校

6 特別支援教室専門員研修 (対象：特別支援教室専門員)

実施月日	内容	対象者数	受講実績
4月14日(金) オンデマンド	・葛飾区の特別支援教室について ・特別支援教室専門員の役割について ・特別支援教室に関わる一年間の流れについて 【講師】担当指導主事、専門家チーム	72人	72人
9月6日(金)	・1学期の振り返りと改善に向けて ・拠点別情報交換(協議・発表) 【講師】担当指導主事、専門家チーム	72人	65人

7 特別支援教室教育課程編成説明会 (対象：特別支援教室教育課程編成に関わる教員)

※各校1名および特別支援教室拠点校各校1名

実施月日	内容	対象校数	受講実績
1月15日(火) オンライン	・特別支援教室教育課程編成におけるポイントについて ・特別支援教室に関する提出書類について 【講師】担当指導主事、専門家チーム	73校	63校

8 クラス支援員研修 (対象：クラス支援員 小学校49校、中学校10校)

実施月日	内容	対象者数	受講実績
4月8日(月) オンデマンド	・「特別支援教育」 ・「特別支援教育総論 学習のユニバーサルデザイン・段階的対応・合理的配慮」	70人	55人

成果

- 「クラス支援員」をはじめ、様々な職種・職層の教職員に対して、研修を実施し、基礎的・実践的な知識・技能の向上を図ることができた。
- 東京都立特別支援学校と連携した研修を実施し、専門性の向上を図るとともに、特別支援学校で行われている児童・生徒への特性に応じた配慮事項や環境整備等について理解を深めることができた。

課題

- 今後も様々な職種・職層の教職員が研修する機会を確保し、特別支援教育の基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、専門性の向上を図る必要がある。また、生活スキルアップ指導補助員等の研修を実施していない職種の研修について検討する。
- 特別支援に関わる職員は勤務形態が様々であることから、多様な働き方の職員に対応した研修の実施を検討する。

令和8年度の方向性

目的	内容
特別支援教育の研修内容の充実	特別支援学級の教員の授業力向上に向けて、外部講師による研修会を設定する。
オンデマンド研修の充実	特別支援教室専門員研修(オンデマンド研修)の内容を専門家チームと連携して検討し、専門性の向上を図る。
生活スキルアップ指導補助員の研修の実施	新規に、研修を2回設定する。 1回目は、年度当初に仕事内容や配慮すべき事柄を学ぶ対面研修を実施し、生活スキルアップ指導補助員としての基礎知識を身に付ける。 2回目は、オンデマンドを活用し、専門性の向上を図る内容で実施する。

令和7年度 各検討部会における課題と方向性

1 特別支援教育専門性向上検討部会

(1) 検討事項（特別支援教育専門性向上検討部会設置要領より）

第2条 検討部会は、次の事項について検討する。

- (1) 特別支援学級（知的障害及び自閉症・情緒障害）における専門性の向上
- (2) 通級指導学級（難聴・言語障害・弱視）における専門性の向上
- (3) 特別支援教室における専門性の向上
- (4) 院内学級（病弱・虚弱学級）・区立特別支援学校（病弱・虚弱特別支援学校）における指導・支援の充実
- (5) その他必要な事項

(2) 開催日時

第1回：令和7年7月25日（金）午前10時～午前11時30分

第2回：令和7年12月4日（木）午後2時～午後3時30分

会 場：いずれも総合教育センター

(3) 課題と方向性

	項目	課題	方向性
①	自閉症・情緒障害 特別支援学級の課題と今後の方向性	▶入級児童・生徒の増加により、今後、既存の4校において、キャパシティの不足により、これ以上の受け入れが困難になる可能性がある。	▶児童・生徒数の推移や需要の見込み、立地や施設の整備も考慮しながら、自閉症・情緒障害特別支援学級の増設を検討する必要がある。
②	専門家チーム派遣 事業の充実	▶活用していない学校では、事業の活用方法等が学校に認識されていない。 ▶学校が抱える課題が多様化していることから、求められる活用範囲や新たな専門職の配置について検討が必要である。	▶活用事例等も紹介するなど、あらためて学校へ事業の周知を行い、活用の促進を図る。 ▶新たな専門職として、作業療法士の活用を検討する。
③	特別支援教室の指導期間について	▶特別支援教室に通室している児童・生徒の退室者数が年々減少し、一方で通室年数が3年目以上の児童・生徒数の割合が増加している。	▶「特別支援教室の目的」や「原則の指導期間の考え方」について改めて各校へ周知し、各校での定期的な指導の振り返りと、在籍学級と連携した実効性のある指導成果の評価及び継続・退室等の検討を促す。

2 特別支援教育環境改善検討部会

(2) 検討事項（特別支援教育環境改善検討部会設置要領より）

第2条 検討部会は、次の事項について検討する。

- (1) 医療的ケアを含む合理的配慮の取組に関すること。
- (2) インクルーシブ教育システムの推進に関すること。
- (3) その他必要な事項

(1) 開催日時

第1回：令和7年8月27日（金）午前10時～午前11時

第2回：令和7年12月4日（木）午前10時30分～午前11時30分

会 場：いずれも都立水元小合学園

(2) 課題と方向性

項目	課題	方向性
特別支援教育における作業療法士の活用	▶発達障害等のある児童・生徒等の割合の増加に伴い、学校が抱える課題が多様化している。	▶専門家チーム派遣事業において作業療法士を新たに活用し、感覚や運動面の視点から支援方法等を助言する。 ▶作業療法士に期待できる支援について分かりやすく周知し、活用の促進を図る。
生活スキルアップ指導補助員研修の実施	▶生活スキルアップ指導補助員向けの研修を実施していない。	▶対面及びオンデマンドによる生活スキルアップ指導補助員向けの研修を実施する。 ▶支援が必要な児童・生徒等の障害種別に応じた対処方法を学び、職務における専門性の向上を図る。

※検討部会では上記課題の検討のほか、現在、区立学校で実施されている医療的ケアの実施状況について検討を行った。

令和 8 年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定

	特別支援教育 推進委員会	特別支援教育 専門性向上検討部会	特別支援教育 環境改善検討部会
4			
5			
6	<u>第 1 回推進委員会</u> <u>(令和 8 年 6 月開催予定)</u> ○令和 7 年度特別支援教育 事業の取組状況 ○特別支援教育に関する研 修について 他		
7		<u>第 1 回部会</u> <u>(令和 8 年 7 月開催予定)</u> ○組織・年間計画 ○検討・協議	
8			<u>第 1 回部会</u> <u>(令和 8 年 8 月開催予定)</u> ○組織・年間計画 ○検討・協議
9			
10			
11		<u>第 2 回部会</u> <u>(令和 8 年 11 月開催予定)</u> ○進捗状況報告 ○令和 9 年度に向けて	
12			<u>第 2 回部会（又は医療的ケ ア判定審査会）</u> <u>(令和 8 年 12 月開催予定)</u> ○進捗状況報告 ○令和 9 年度に向けて
1	<u>第 2 回推進委員会</u> <u>(令和 9 年 1 月開催予定)</u> ○各部会報告 ○令和 8 年度の取組状況 他		
2			
3			